



◇テサロニキの I. A. U. シンポジウム

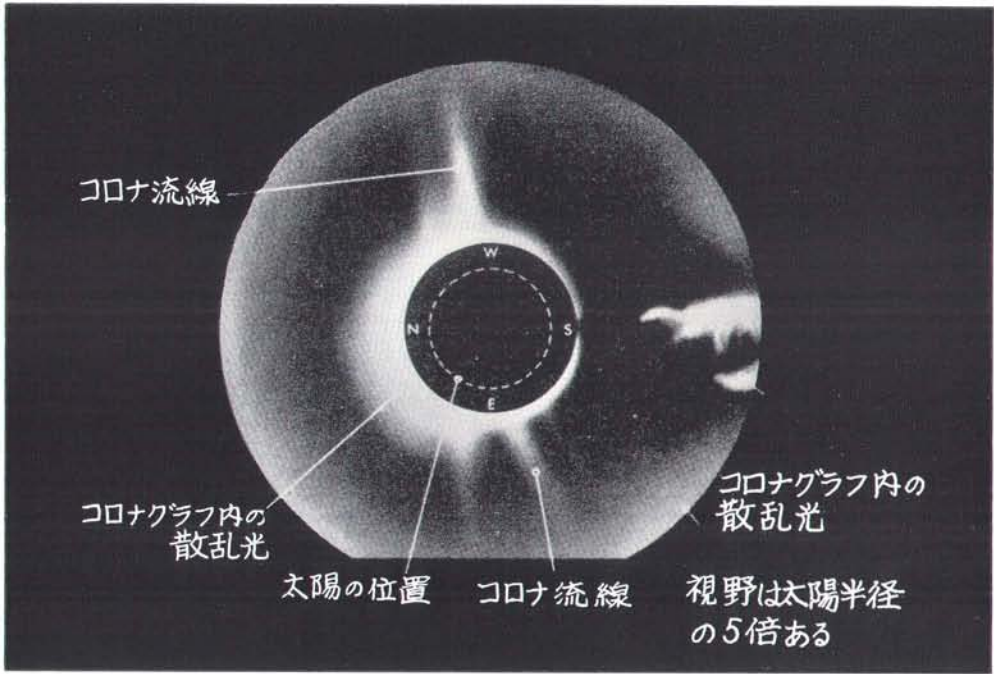
これらの写真は8月17日～22日、ギリシャのテサロニキでひらかれた I. A. U. シンポジウム No. 25 (本文参照) でとられたもので、右は開会式での会場の約半分、上は参加者およびその同伴者の記念さつえいである。

会場はテサロニキ大学寄宿舎の講堂で、開会式には同伴の夫人連も出席していることに注意されたい。

このシンポジウムは南ヨーロッパ風に、朝は9時から12時まで、夕方は5時から8時まで発表が行なわれ、ひるの5時間は休みであった。上の記念さつえいは、そのひるやすみを利用して海水浴に出発する前にとったものである。上の写真で一番左側にいる人達はテサロニキ大学の世話人達で、主として学生がかりだされているいろいろな世話をしていた。



また、このシンポジウムの最中にテサロニキ付近と、シンポジウムの前と後にデルフィー、コリント、ムセナイなどの遺跡見学の遠足もあり、十分にギリシャの風景をたのしむことができた。



◇ コロナスコープによるコロナ観測

気球にコロナグラフを積んで、3万 km の高さからコロナを観測する最初の試みが、本年3月5日アメリカ・テキサス州で行なわれた。地球大気の影響を小さくしたために、上の写真に見るように日食時以外には観測されなかったコロナ流線がはっきりと写し出された。下の写真はその時の気球浮上の風景。(右はしにコロナスコープが見える)

